

学会通信

◎学会活動（二〇一四年度）

現代中国学会共催講演会

二〇一四年六月二日

公開講演会「中華民国史研究―現在と過去との会話」

山田辰雄（慶応義塾大学名誉教授）

二〇一四年二月一三日

公開講演会「日中関係の現状と将来」

岡部達味（東京都立大学名誉教授）

現代中国学会主催講演会

二〇一四年七月一二日

ドキュメンタリー上映、ダンス・デモンストレーション&座談会「石井漢・石井みどり・蔡瑞月とその時代―日台モダン・ダンスを拓く」

二〇一四年七月一三日

国際シンポジウム「戦中戦後の身体芸術とメディア―台湾・日本・中国の連鎖」

二〇一四年一月五日

「張愛玲と映画」

李欧梵（ハーバード大学名誉教授、

香港中文大学講座教授）

現代中国学部提供講座

二〇一四年一〇月八日

「世界で学ばれる日本語」

二〇一四年一〇月二三日

「グローバル世界における日中関係」

二〇一四年一月五日

「大学におけるグローバル人材育成」

二〇一四年一月一九日

「日本人の知らない日本―日本人は集団主義か？」

二〇一四年二月三日

「国連における中国」

二〇一四年二月一七日

「民族の視点から見た日本と中国」

二〇一四年二月一七日

「日中関係をめぐる世界遺産の旅」

二〇一四年七月二〇一五年一月

「日中関係をめぐる世界遺産の旅」

加治宏基

愛知大学・蒲郡市民教養講座「中国」於蒲郡市民会館、二〇一四年八月二三日、「越境する伝統文芸―国際政治としての世界遺産」

（講演、三重大学地域戦略センター・「有造館ゼミナール」共催講座「中心市街地にぎわい創出事業―津市の歴史・文化編」於アスト津、二〇一四年九月二二日、

「国連における中国」（講演、愛知大学エクステンション・センター特別講座「現代中国学部提供講座」於愛知大学車道校舎、二〇一四年二月三日）

川村亜樹

「人種とスポーツ―アメリカンフットボール映画のなかのヒップホップ世代」（『アメリカ観の変遷―上巻「人文系」、大学教育出版、二〇一四年一〇月、「人種問題をめぐる白人の自嘲―オバマ大統領誕生後のシカゴ、クライボーン・パーク」

（シンポジウム「二一世紀、変わる／変わらないアメリカとアメリカ演劇」日本アメリカ演劇学会第四回大会、於ホテル玉山、二〇一四年九月二二日、「フリースタイルを演出する場としてのヒップホップ・ファッション」

（ワークショップ「衣装と意匠のフォークロア―二〇世紀アフリカ系アメリカ人の諸相」日本アメリカ文学学会第五三回全国大会、於北海学園大学、二〇一四年一〇月五日）

黄英哲

『東亜地区的合作与和平』（共編、台北：前衛出版社、二〇一四年一月）、『藤野先生』到台湾―論戦後初期「中日友好」的符碼」（許雪姬編『台湾歴史的多元傳承與鑲嵌』台北：中央研究院台湾史研究所、二〇一四年二月）

唐燕霞

「現代中国の国家建設と社会建設―基層社会の変化を手がかりに」(華東政法大學『比較現代化視野下的中日国家建設』研討會論文集)二〇一四年一月一五(日)
樋泉克夫

「高鉄世界新絲路構想」(『中部經濟新聞』二〇一四年一月一三日)、「タイにとつての中国とは」(講演、在バンコク日本人會、二〇一四年九月六日)、「一国両制」と『雨傘革命』(講演、亜細亞大學学生会、二〇一四年一月二日)、「香港問題を考える―植民地・特別行政区・地産覇権・民主化」(講演、中央大學白東史學會、二〇一四年一月六日)、「東南アジアの部屋」(連載、『Foreign(電子版)』新潮社)、「華人企業家の夢と野望」(連載、『Asia Market Review』重化学工業通信社)

中国21 Vol.43 予告(15年7月刊行予定)

特集●中国近現代文学研究

本特集でいうところの文学研究とは、「文字や紙媒体のテクスト」研究を指している。中国とは、中国大陸、近現代とは清末以降を指す。

近年の日本では、若い研究者や大学院生等を中心に映画、演劇、音楽、漫画といった「非テクストメディア」に関する研究が人気を集めており、一方の「文字や紙媒体のテクスト」に関する研究は古臭いものとして敬遠されがちである。もちろん「非テクストメディア」に関する研究の進展とその成果には目を見張るべきものがあり、文化史や社会史を論じる上で今や不可欠な研究分野だが、「文字や紙媒体のテクスト」が文学研究の原点であることは衆目の一致するところであろう。加えて、中国の近現代文学にはまだ多くの未解明な部分が残されており、深く掘り下げるべき研究課題は多い。そのため、本号ではあえて「文字や紙媒体のテクスト」にこだわって特集を組むことにした。

【座談】李欧梵×安部悟×星野幸代×楊穎

【論説】王德威「摩羅からノーベルまで」、王堯「中国当代文学史における『過渡状態』」、梅家玲「『聲音』と中国文学の現代文学への転換」、高嘉謙「近代漢詩の南シナ海視野」、松浦恒雄「穆旦における『上帝』の変遷」、濱田麻矢「出会い損ねの物語―蕭紅『手』再読」、小笠原淳「西西と多和田葉子の小説における寓話世界の構築について」、橋本悟「近代中国文学研究における『東アジア』と『世界』」、羽田朝子「梅娘と『大同報』文藝欄」、大川謙作「チベット現代文学を読む―その意義と現状」、及川茜「紅色の水先案内人―李永平のミューズ朱鶴をめぐって」ほか

【特別寄稿】北岡正子、岡田英樹、范伯群